

中央環境審議会水環境・土壌農薬部会（第10回）

議事要旨

■ 審議方法：書面審議

■ 議 題：海底下 CCS 制度専門委員会の設置について

■ 参加委員：古米部会長、浅見委員、大久保委員、大塚委員、白石委員、高村委員、中川委員、朝比奈委員、岡久委員、小川委員、風間委員、河川委員、木坂委員、肴倉委員、鈴木委員、大東委員、田中委員、谷口委員、東海委員、中島委員、奈良委員、西嶋委員、根岸委員、林田委員、三浦委員、山室委員

■ 審議結果：8月23日に各委員に開催通知を送付し、電子メールにて26名の委員より回答を得た。9月4日に回答結果を部会長にご報告し、同日付けで海底下 CCS 制度専門委員会を設置とする旨了承を得た。

■ 議事概要：下記のとおり。

中央環境審議会水環境・土壌農薬部会（第10回）議事概要
 （議題：海底下 CCS 制度専門委員会の設置について）

■回答結果

了承する : 26 名

了承しない : 0 名

■個別にいただいた御意見及びその対応

御意見	対応
[高村典子委員] 専門性の高い有識者による議論が必要に思います。	御指摘踏まえ、当該専門委員会には、CCS への専門的知見がある方に委員として参画いただく予定です。
[木坂隆一委員] 今後、海洋環境保全に関して、法整備や海洋環境調査等についての議論をより深めていくことが重要と考えます。	当該専門委員会で、今後実施される海底下 CCS が海洋環境保全と調和する形で実施されるよう主に海洋環境保全のための制度の在り方を議論してまいります。
[田中宏明委員] 社会的に CCS への対応が求められているため、環境影響の立場から至急、環境省での検討体制をとる必要があると認められる。	
[東海正委員] すでに平成 19 年 2 月の答申も出されており、国際的な動きに対応するためにも必要である。ただし、答申にも記されているが、二酸化炭素の分離、回収、貯留に際して必要となるエネルギーコストや CO2 排出とのバランスをよく検討してもらいたい。また、地球温暖化と同じく海洋における酸性化も大きな問題となっているので、貯留した二酸化炭素が漏洩した場合の生物への影響についても十分に検討していただきたい。	当該専門委員会では、今後実施される海底下 CCS が海洋環境保全と調和する形で実施されるよう、主に海洋環境保全のための制度の在り方を議論してまいります。 議論の中では、海洋環境の保全について、生態系への影響も踏まえ議論してまいります。